

8/30

町内農地の成り立ちを学ぶ 道央・道南ブロック現地研修会

道 央、道南の農家に洞爺の農作地の成り立ちや、財田米について学んでもらう道央・道南ブロック現地研修会が行われました。道の「北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業」の一環として行われました。

町の担当職員が財田米や洞爺カルデラを解説した後、財田米ブランド推進委員会の塩田満委員長が講演。洞爺地区の扇状地の水はけの良さと財田米の関連などを説明し、参加者は興味深そうに聞き入っていました。



洞爺の農業について意見を交わす参加者

8/26

景勝地を望む道路を美しく ヨゴサンキャンペーン

町 や道開発局などによる清掃活動「ヨゴサンキャンペーン」が道道230号で行われました。道開発局などは、道内の景勝地などを通過するルートを指定して観光振興につなげる「シーニックバイウェイ」を進めており、今回の活動もその取り組みの一環となります。

参加者は、火ばさみとごみ袋を手に沿道を歩いて捨てられているごみを拾い集め、湖畔の美観の維持に汗を流しました。



道道230号のごみを拾う参加者

9/7

地元の農産物を知る とうや小5年生稲刈り体験

と うや小学校(山下文人校長)の5年生が、財田地区にある塩田満さんの水田で、稲刈り体験を行いました。

児童たちに、地元の農産物への興味・関心を持ってもらうため、総合的な学習として実施し、今年5月に行った田植え体験に続く学習でした。

児童たちは、コンバインに乗り込んでの収穫体験や、昔ながらの鎌を使っての収穫体験などを行いました。



コンバインに乗り込み収穫体験をする児童

9/5

豊かな海を目指して 虻小3年生マツカワ稚魚放流

虻 田小学校(横山慎二校長)の3年生がマツカワの稚魚を、浜町の前浜から放流しました。

この放流は、胆振総合振興局主催の第42回全国豊かな海づくり大会の一環で行われたものです。

児童は、「マツカワは2年後に放流場所に戻ってくる」と習性を教わった後、体長約5センチメートルのマツカワを、かごを使って放流しました。



かごからマツカワを放流する児童

9/22

町内の景観維持に貢献 北紘建設に感謝状

町 内の清掃活動に尽力した北紘建設（笹山智市代表取締役）に町が感謝状を贈呈しました。

同社は8月、地域貢献の一環として、洞爺高台地区の側溝にたまった土砂の除去作業と大磯漁港の草刈りを行いました。

下道町長は「厳しい暑さの中、ありがとうございます」と感謝を伝えました。感謝状を受け取った河島専務取締役は「今後も町の力になりたいと思います」と話しました。



感謝状を受け取った河島専務取締役（中）、高橋勝彦土木部工事課長（右）と下道町長

9/14

国内外の力自慢が集結 アジアベンチプレス選手権

ア ジアベンチプレス選手権大会が洞爺湖文化センターで行われました。日本のほかモンゴルやイランなどから約180人が出場。競技用ウェアを着用する「エキップ」と、着用しない「クラシック」の2種目で階級別に争われました。

選手たちは、力を振り絞ってバーベルを持ち上げ、記録を競いました。中には300kg以上のバーベルを持ち上げる選手も現れ、会場を沸かせていました。



力を込めてバーベルを上げる選手

9/28

ふるさと納税で町に寄付 マテックに感謝状

企 業版ふるさと納税制度を利用して町に寄付を行った帯広市のリサイクル業「マテック」（杉山博康代表取締役）に対し、町が感謝状を贈呈しました。

同社は、10年以上に渡って町内の小型家電の回収事業を継続しており、今回の寄付につながりました。感謝状を受け取った田中克宜執行役員取締役事務長は「今後も継続して町を応援したいです」と話しました。下道町長は「子育て政策の充実に役立てます」と感謝を伝えました。



感謝状を受け取った田中執行役員取締役事務長（右）と下道町長

9/26

勝利を目指して駆け引き フロアカーリング交流会

ウ イメンズネットワーク洞爺湖（青木佐智子代表）のフロアカーリング交流会が、あぶた母と子の館で行われました。25人が参加し、5チームに分かれて勝敗を競いました。フロアカーリングは、「ターゲット」を狙って自チームの「フロッカー」を投げ、相手チームより近づけると点を得られるルール。参加者は、相手のフロッカーをうまく避けられるようにコントロールに気を付け、得点を競っていました。



高得点を狙ってフロッカーを投げる参加者